

市政ニュース

志賀直哉城崎温泉来訪100周年記念事業

紺野美沙子さんによる「城の崎にて」の朗読会

紺野美沙子さんと城崎を語る会開催

10月29日、俳優の紺野美沙子さんを招き、志賀直哉城崎温泉来訪100周年記念事業（同実行委員会主催）が開催されました。

《第一部》紺野美沙子さんによる「城の崎にて」の朗読会

紺野さんが、「城の崎にて」の朗読を、城崎小学校5・6年生や城崎中学校全生徒、保護者を対象に、城崎中学校多目的ホールで行いました。

また、同校生徒が「わがまち・わがふるさと」と題した作文を発表しました。紺野さんは作文の感想を述べ、生徒たちに命の大切さを伝えました。



▲生徒から、麦わら細工の感激を贈られ、美沙子さんによる朗読会

《第二部》紺野美沙子さんと城崎を語る会



▲紺野美沙子さん(左)と中貝市長の対談

城崎温泉街の旅館で開催されました。

紺野さんが「城の崎にて」のあらすじを語り、「本を読むことも朗読も想像力がいります。想像力は自分以外の第三者を思いやることにつながります」と話しました。

続いて、同実行委員の西村肇さんの司会進行で、紺野さんと中貝市長が対談しました。紺野さんは城崎温泉の印象などを話し、中貝市長は城崎温泉が守り、大切にしていることなどを語りました。

災害時の情報収集・発信に貢献

災害時における相互協力協定を郵便局と締結

10月28日、災害時における相互協力に関する協定を、市内27郵便局と締結しました。

当日は、郵便局を代表して、植村耕作豊岡郵便局長と中貝市長が協定書に署名しました。

《協定の内容》

- 1 郵便物の配達などの業務を通じて知り得た、災害による道路等の損害状況などの情報を市に提供
- 2 郵便局ネットワークを活用した広報活動

3 避難所などにおける臨時の郵便差出箱の設置 などの提供 など



▲協定書に署名する植村豊岡郵便局長(右)と中貝市長

市民の健康づくり、仲間づくりのために「とよおか歩キングマップ」作成とスタンプラリー実施

市民の健康行動へのきっかけづくりと運動習慣の定着、さらに仲間づくりのため、12の歩キングコースを紹介した「キングマップ」を作成しました。また、このマップの完成に合わせて、健康ポイント付与などの特典がある、スタンプラリーを11月から来年10月まで実施します。



▲「とよおか歩キングマップ」

主な市政の動き

10月

- 17日・第2期「豊岡エコバレー」山宮地場ソーラー」竣工式
- 18日・市政懇談会(豊岡、28日・日高、29日・竹野、11月11日・但東、12日・出石)
- 19日・KTR豊岡市民号
- 20日・台風23号メモリアル事業「防災学習会」
- 27日・豊岡市議会議員選挙(28日・当選証書付与式)
- 28日・災害時相互協力協定を郵便局と締結
・「植村直」冒険賞」受賞者竹内洋岳さん講演会(～30日)
- 11月
- 1日・豊岡市美術展(～5日)
- 4日・WTM(world travel market)2013出展(～7日・ロンドン)
- 5日・永楽館歌舞伎(～10日)
- 8日・台風26号被災地伊豆大島への義援金募集(～12月9日)
- 9日・生物多様性ミニフォーラム
- 10日・第2回コウノトリ野生復帰検証委員会
・生物多様性全国ミーティング

〜男女共同参画社会づくりモデル地区〜

三世代交流事業「三原高原の風 今に生きる深山の暮らし」を開催

10月26日、旧三原小学校で、男女共同参画社会づくりモデル地区の三原区(竹野地域)が三世代交流事業「三原高原の風 今に生きる深山の暮らし」を開催しました。同区では、深山の営み(味覚・工芸)が受け継がれており、その紹介や体験で、多くの区民らが交流し、つながりを深めました。

当日は、ロクロ細工(盆や花瓶などの木製品)やワタタ



▲つる細工の体験。講師は三原区民の茨木光男さん

〜姉妹都市上田市との交流〜

出石お城まつりに上田市長、同市議会議長らが来訪

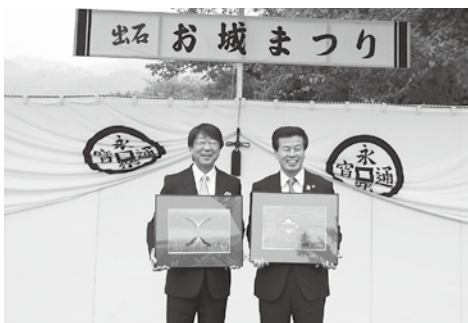
11月2〜4日まで、長野県上田市から、市長の母袋創一さんと市議会議長の尾島勝さんら約20人が来訪しました。

3日に開催された「出石お城まつり」では、毎年好評を博している上田市特産「リンゴ」の無料配布や物産展で、まつりを盛り上げていただきました。

母袋市長らは出石明治館や県立コウノトリの郷公園、玄武洞公園などを見学され、豊

岡への理解を深められました。上田市とは、1706年の出石藩主と上田藩主とのお国替えを縁に、旧出石町が昭和54年に姉妹都市提携を締結してから、長年、さまざまな交流を続けています。

今年9月には、平成23年5月に本市で巣立ったコウノトリが上田市に舞い降りしました。いろいろなご縁がある上田市と本市。今後も、素敵な交流が続き、絆がさらに深まっ



▲上田市に飛来したコウノトリの写真を披露する母袋市長(右)と中貝市長

中貝市長の徒然日記 73

園遊会顛末記

園遊会に招かれました。約2千人の参加者が、赤坂御苑の池の周りにずらっと並びます。その前を皇族方が歩いていかれます。その列に、卵を飲み込んだヘビのお腹のように膨らんでいる場所があります。長嶋茂雄さんたち、今回のメインゲストが最前列におられる場所で、何重にも人垣ができています。テレビや新聞、雑誌のカメラも集中しています。映るならそこです。招かれたのは市民の皆さまのおかげです。来ていることをお知らせしなければなりません。後列でカメラと長嶋さんを結ぶ延長線上に陣取りました。夕方のニュースを見ると、画面の端の方にチラリと映っていました。作戦成功です。

が、そこに居たままで、陛下に声を掛けていただくことはできません。そこで、陛下が歩かれる順路の最後尾に移動します。そこは、人はまばらです。そのことを8年前、大水害の後に招かれた際、偶然発見しました。天皇、皇后両陛下がお越しになりました。陛下は私の名札をご覧になり、「あ、豊岡。コウノトリですね」「はい、今78羽が空を飛んでいます」「それは良かったですね」「皇太子さまがお越しになりました。名札をご覧になり、「水害がありましたね」

9年前のことを覚えておられました。「はい、今はすっかり立ち上がりました。伊豆大島は他人事とは思えません」

秋篠宮さまは、中貝を見て「おっ」という感じで、「コウノトリの会議は来年でしたね」「はい、ぜひお越しください」「できれば」

秋篠宮妃紀子さまは、目が合うと「お久しぶりです」と声を掛けてくださいました。「今年は小学校の校庭で生まれたヒナが巣立ちました。運動会の綱引きのときには、上空をくるくる回りました」「コウノトリも参加したのですね。子どもたちも喜んだでしょうね」

豊岡に声を掛けていただき、市長も妻も、大喜びでした。